

2 地域福祉について

2-1 隣近所との付き合い

◎ 「あいさつをする程度」が45.9%

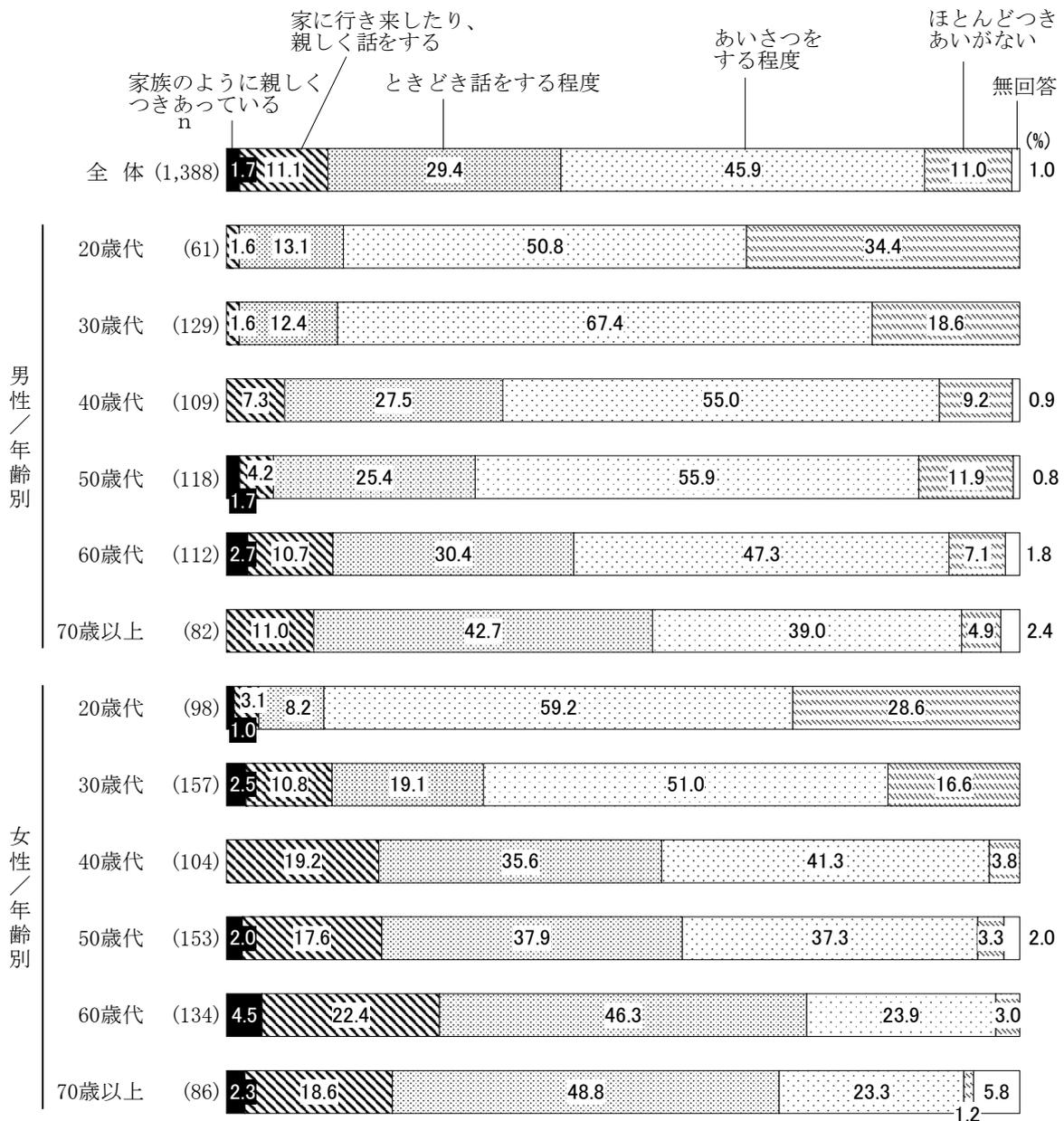
問8 あなたは隣近所との付き合いをどの程度していますか。(○は1つ)

図表2-1 隣近所との付き合い



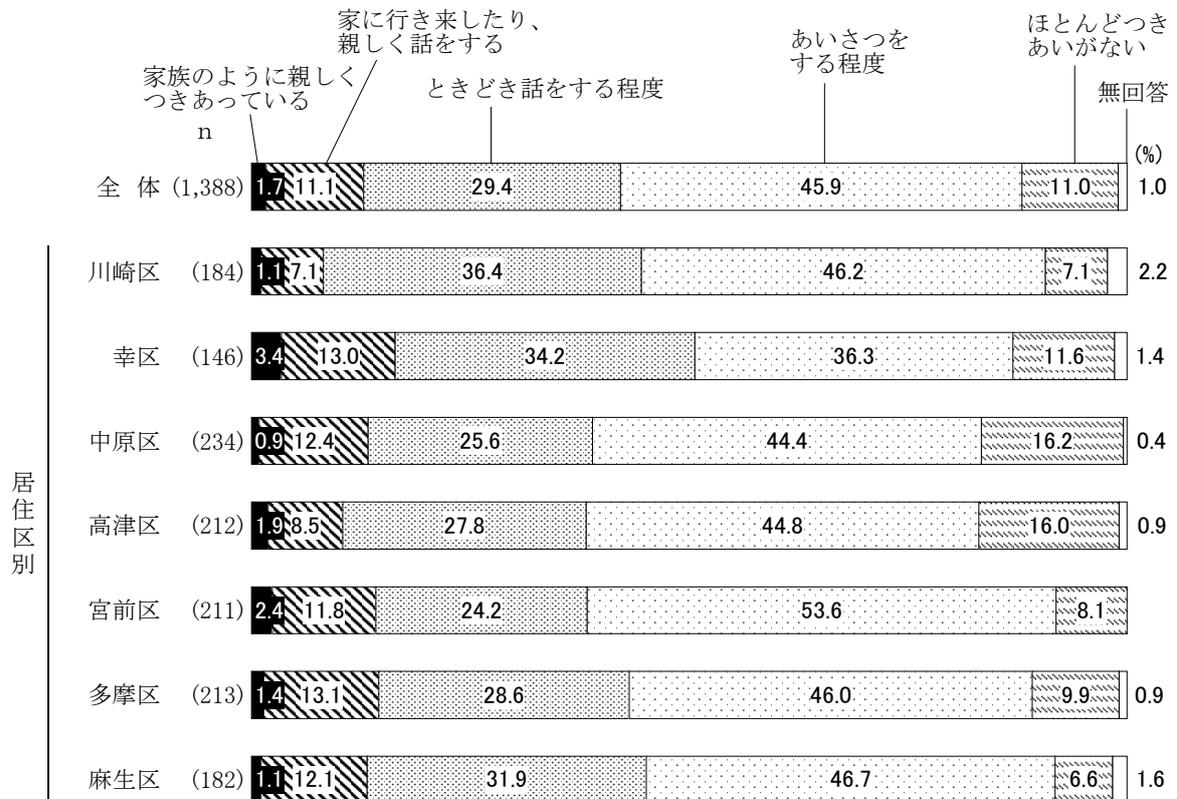
隣近所との付き合いの程度では、「あいさつをする程度」が45.9%、「ときどき話をする程度」が29.4%となっており、「家族のように親しくつきあっている」(1.7%)や「家に行き来したり親しく話をする」(11.1%)のように、親しい付き合いをしている人は1割強にとどまっている。(図表2-1)

図表2-2 隣近所との付き合い(性/年齢別)



性/年齢別では、いずれの年齢でも「あいさつをする程度」や「ときどき話をする程度」の割合が多く、男女の20歳代、30歳代の若い世代で特に多くなっている。「ほとんどつきあいが無い」も男女20歳代で特に多い。親しい付き合いをしている人は女性の60歳以上で2割を超えて比較的多く、40歳代と50歳代でも2割弱となっており、全体的に女性の方が親しい付き合いをしている人が多い。(図表2-2)

図表 2-3 隣近所との付き合い（居住区別）



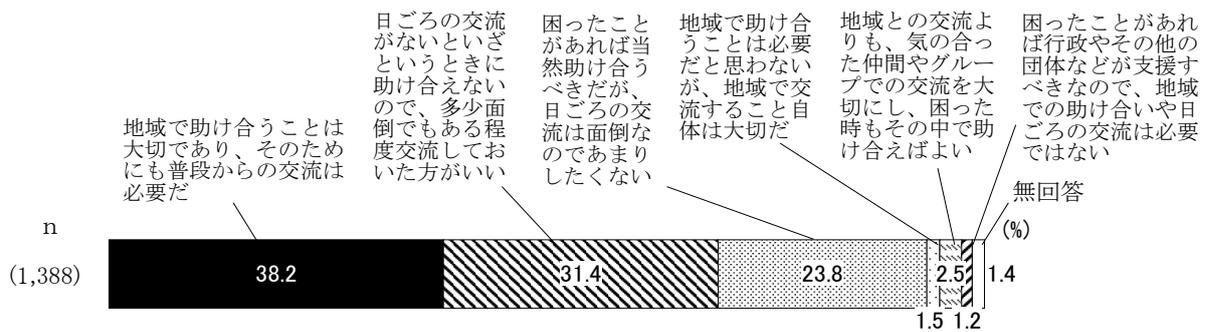
居住区別では、いずれの区でも「あいさつをする程度」、「ときどき話をする程度」の割合が多くなっている。「ほとんどつきあいが無い」は中原区、高津区で1割台半ばと他の区より多くなっている。親しい付き合いをしている区はいずれも2割以下と低くなっており、特に川崎区では1割に満たない。(図表2-3)

2-2 近所付き合いや地域住民同士の交流の必要性

◎ 7割近い人が日常的な交流や助け合いの必要性を感じている

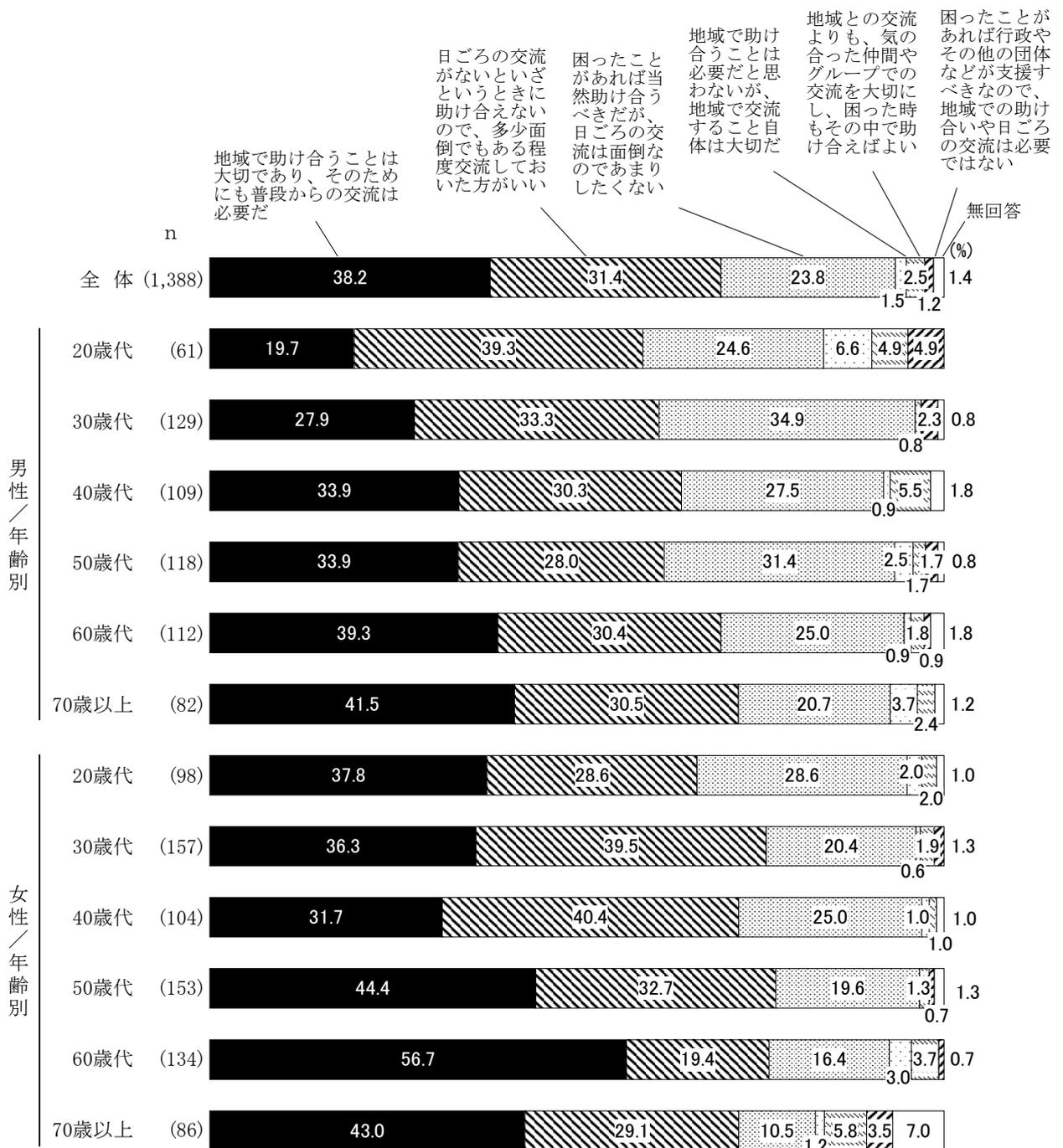
問9 あなたは、近所付き合いや地域住民同士の交流について、どの程度必要とっていますか。(○は1つ)

図表2-4 近所付き合いや地域住民同士の交流の必要性



近所付き合いや地域住民同士の交流の必要性では、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにも普段からの交流は必要だ」(38.2%)、「日ごろの交流がないといざというときに助け合えないので、多少面倒でもある程度交流しておいた方がいい」(31.4%)で3割台となっており、7割近い人が日常的な交流や助け合いの必要性を感じている。また、「困ったことがあれば当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない」(23.8%)、「地域で助け合うことは必要だと思わないが、地域で交流すること自体は大切だ」(1.5%)、「地域との交流よりも、気の合った仲間やグループでの交流を大切にし、困った時もその中で助け合えばよい」(2.5%)のように条件付きで交流や助け合いを必要と感じている人は27.8%となっている。一方、「困ったことがあれば行政やその他の団体などが支援すべきなので、地域での助け合いや日ごろの交流は必要ではない」は1.2%にとどまっている。(図表2-4)

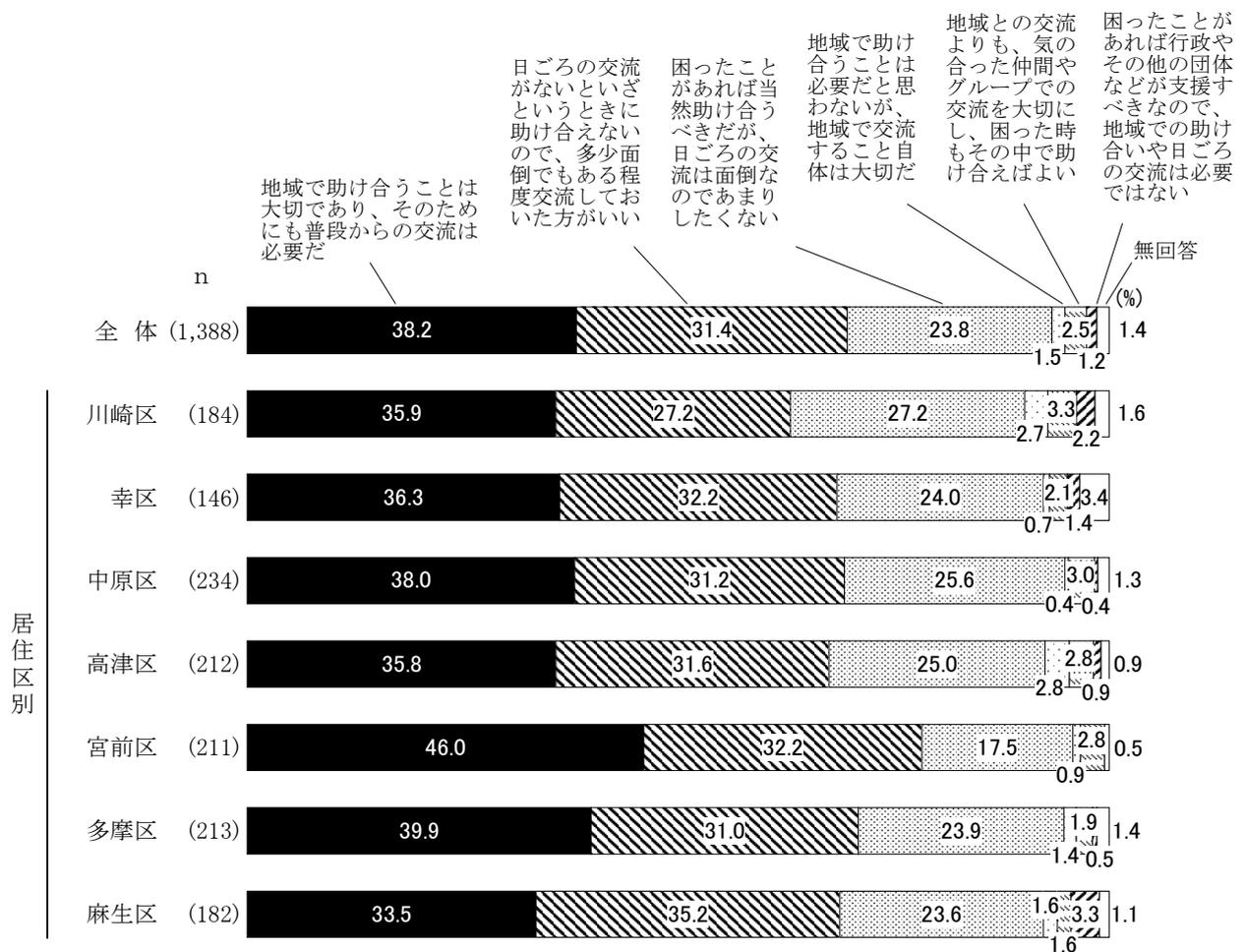
図表2-5 近所付き合いや地域住民同士の交流の必要性(性/年齢別)



性/年齢別では、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにも普段からの交流は必要だ」、「日ごろの交流がないといざというときに助け合えないので、多少面倒でもある程度交流しておいた方がいい」という日常的な交流や助け合いの必要性を感じている人は、男性の70歳代、女性の30歳以上で7割を超えている。

「困ったことがあれば当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない」、「地域で助け合うことは必要だと思わないが、地域で交流すること自体は大切だ」、「地域との交流よりも、気の合った仲間やグループでの交流を大切にしたい」、「困った時もその中で助け合えばよい」のように条件付きで交流や助け合いを必要と感じている人は男性の20歳代から50歳代、女性の20歳代で3割台となっている。(図表2-5)

図表2-6 近所付き合いや地域住民同士の交流の必要性(居住区別)



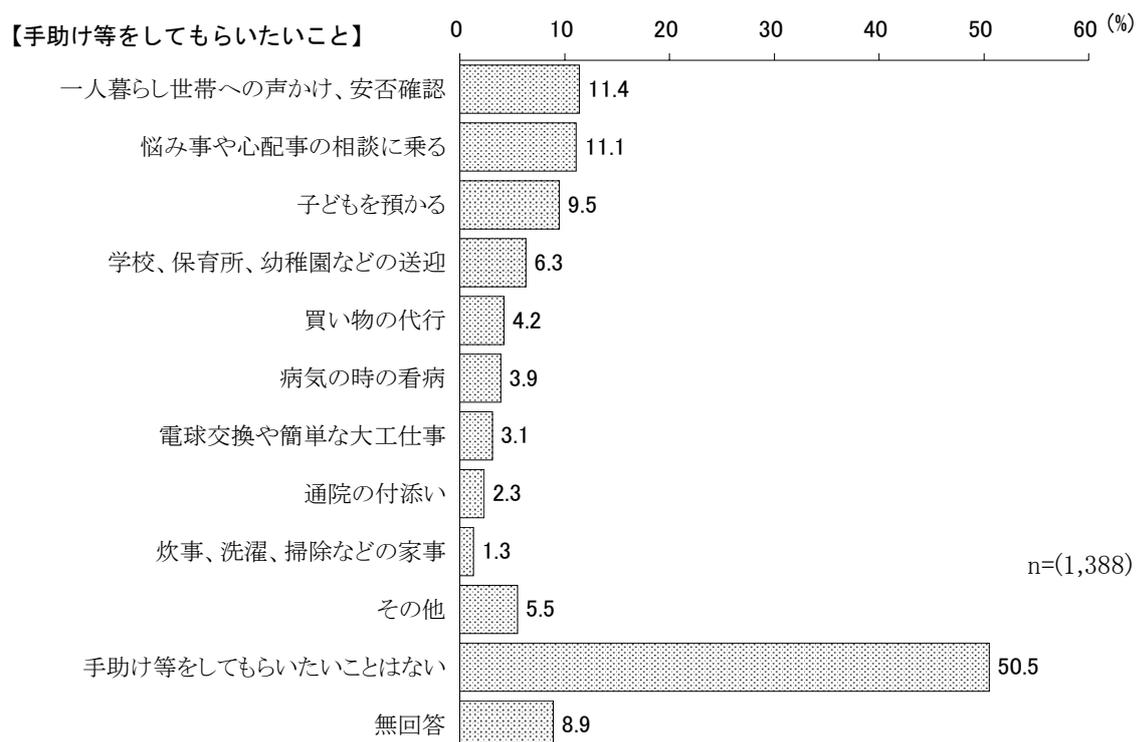
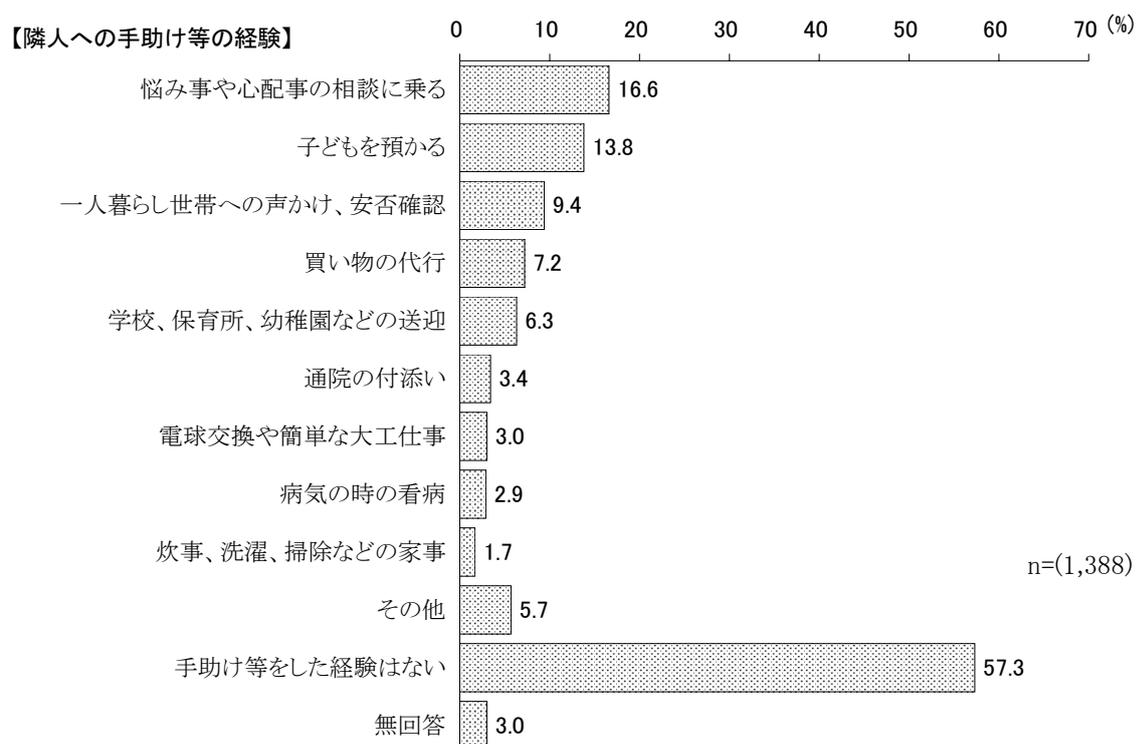
居住区別では、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにも普段からの交流は必要だ」、「日ごろの交流がないといざというときに助け合えないので、多少面倒でもある程度交流しておいた方がいい」という日常的な交流や助け合いの必要性を感じている人は、宮前区で8割近く、多摩区で約7割を占めている。(図表2-6)

2-3 隣人への手助け等の経験・してもらいたいこと

- ◎ 隣人との手助け等についての意識は低く「手助け等をした経験はない」が57.3%、「手助け等をしてもらいたいことはない」が50.5%

問10 あなたは、隣近所の人の手助け等をした経験はお持ちですか。また、手助けしてもらいたいことはありますか。(それぞれについてあてはまるものすべてに○)

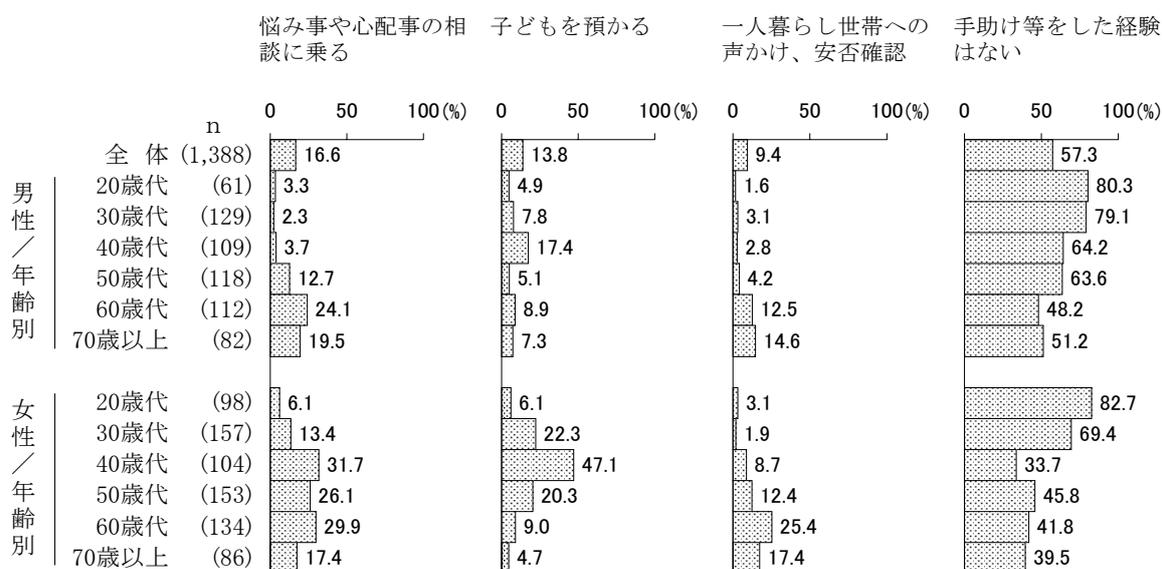
図表2-7 隣人への手助け等の経験・してもらいたいこと



隣人への手助け等の経験では、いずれの項目も割合が少なくなっており、「手助け等をした経験はない」が57.3%と多数を占めている。内容では「悩み事や心配事の相談に乗る」が16.6%で最も多く、以下「子どもを預かる」(13.8%)、「一人暮らし世帯への声かけ、安否確認」(9.4%)、「買い物の代行」(7.2%)、「学校、保育所、幼稚園などの送迎」(6.3%)などが続いている。

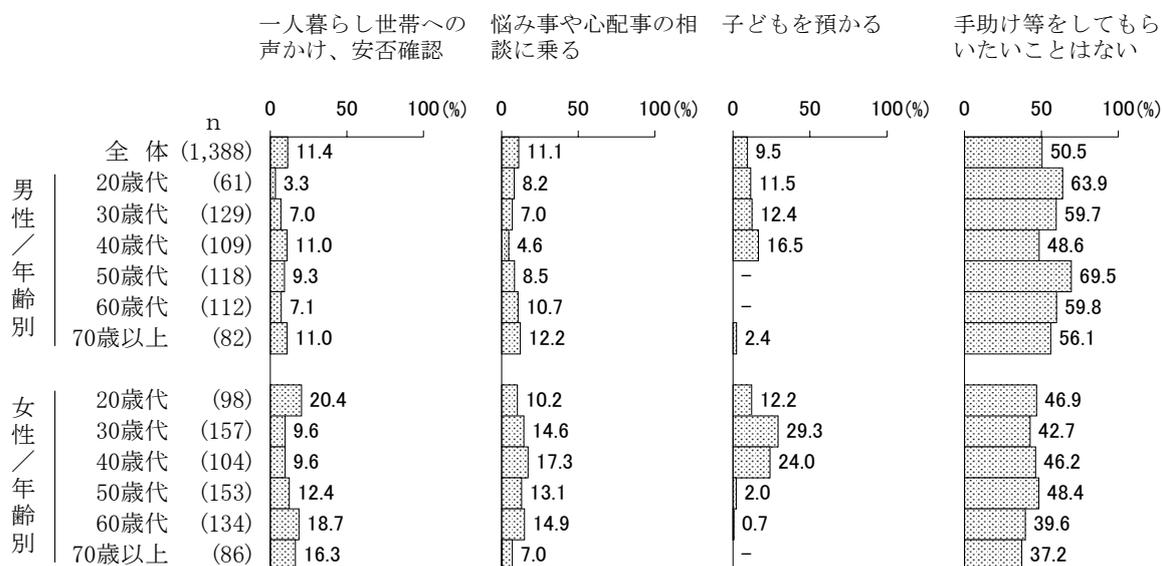
手助け等をしてもらいたいことでもいずれの項目も割合が少なくなっており、「手助け等をしてもらいたいことはない」が50.5%と半数を占める。内容では、「一人暮らし世帯への声かけ、安否確認」(11.4%)、「悩み事や心配事の相談に乗る」(11.1%)が1割を超えている。以下、「子どもを預かる」(9.5%)、「学校、保育所、幼稚園などの送迎」(6.3%)などが続いている。(図表2-7)

図表2-8 隣人への手助け等の経験(性/年齢別、上位3項目、「手助け等をした経験はない」)



隣人への手助け等の経験：性/年齢別では、「悩み事や心配事の相談に乗る」、「子どもを預かる」は女性の40歳代で多くなっている。「一人暮らし世帯への声かけ、安否確認」は男女とも60歳以上で多くなっている。また、「手助け等をした経験はない」は20歳代で8割以上となっており、概ね年齢が高くなるにつれて少なくなる傾向がみられる。(図表2-8)

図表2-9 手助け等をしてもらいたいこと
 (性/年齢別、上位3項目、「手助け等をしてもらいたいことはない」)



手助け等をしてもらいたいこと：性/年齢別では、「一人暮らし世帯への声かけ、安否確認」は女性の20歳代で2割と多くなっている。「子どもを預かる」は女性の30歳代と40歳代で2割台と多くなっている。また、「手助け等をしてもらいたいことはない」は男性の各年齢で4割以上となっており、特に20歳代と50歳代で6割台と特に多くなっている。女性では20歳代から50歳代で4割以上となっており、女性より男性の方が全体的に割合が多くなっている。(図表2-9)

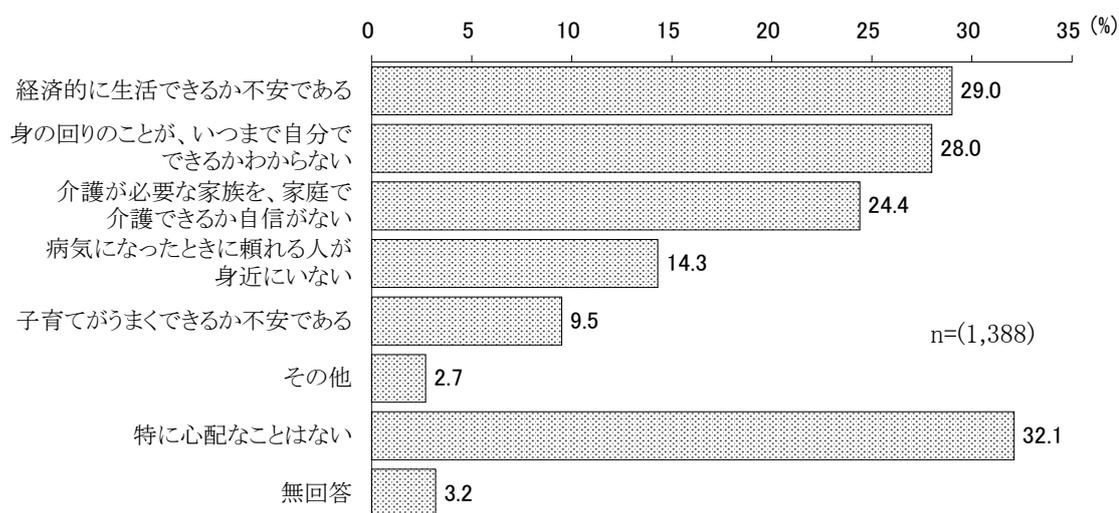
2-4 家庭生活における不安

◎ 「経済的に生活できるか不安である」が29.0%、「身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない」が28.0%

問11 あなたは家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。

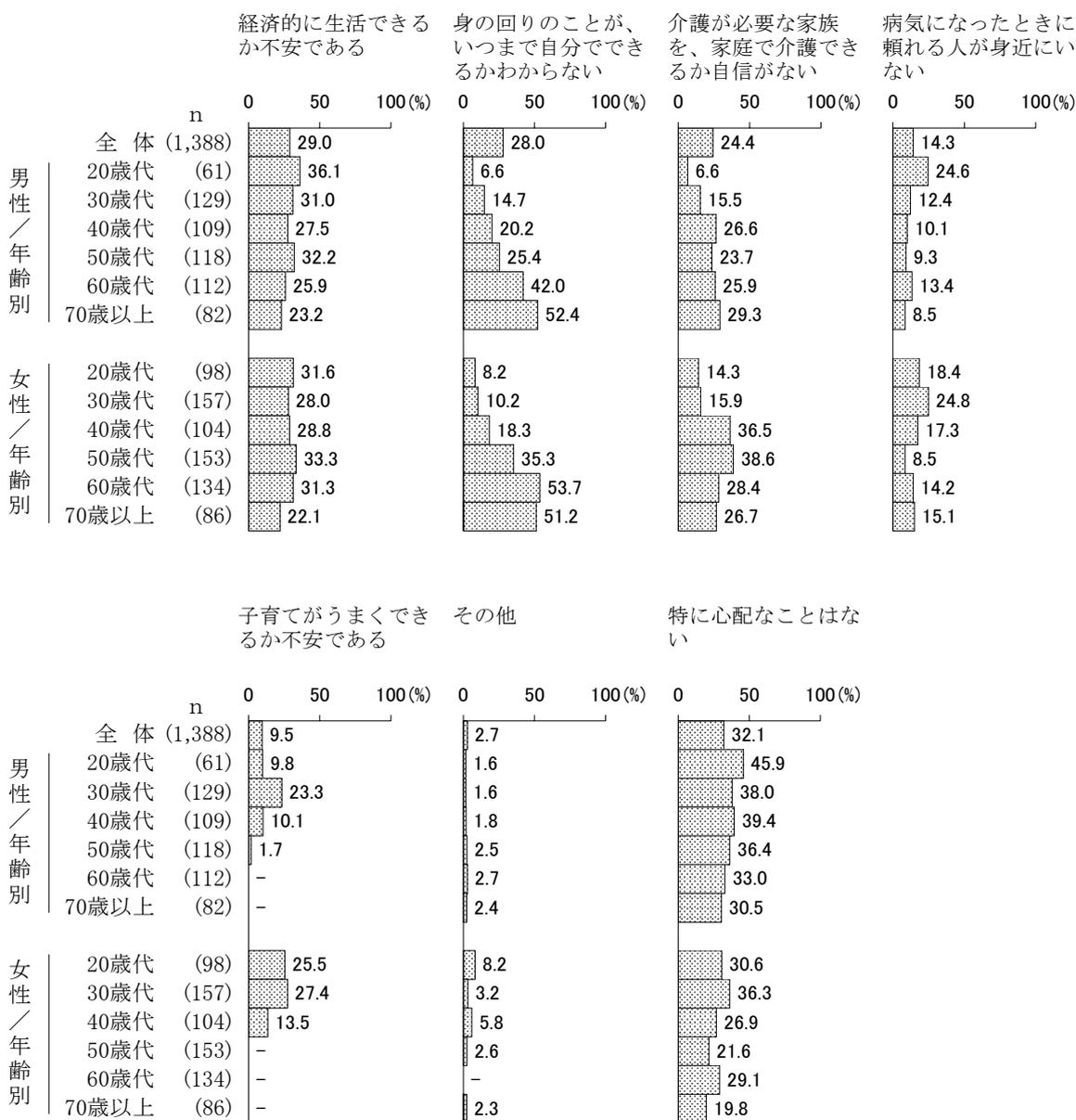
(あてはまるものすべてに○)

図表2-10 家庭生活における不安



家庭生活における不安では、「経済的に生活できるか不安である」(29.0%)、「身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない」(28.0%)が3割に近くなっている。以下、「介護が必要な家族を、家庭で介護できるか自信がない」(24.4%)、「病気になったときに頼れる人が身近にいない」(14.3%)、「子育てがうまくできるか不安である」(9.5%)と続いている。一方、「特に心配なことはない」も32.1%となっている。(図表2-10)

図表2-11 家庭生活における不安(性/年齢別)



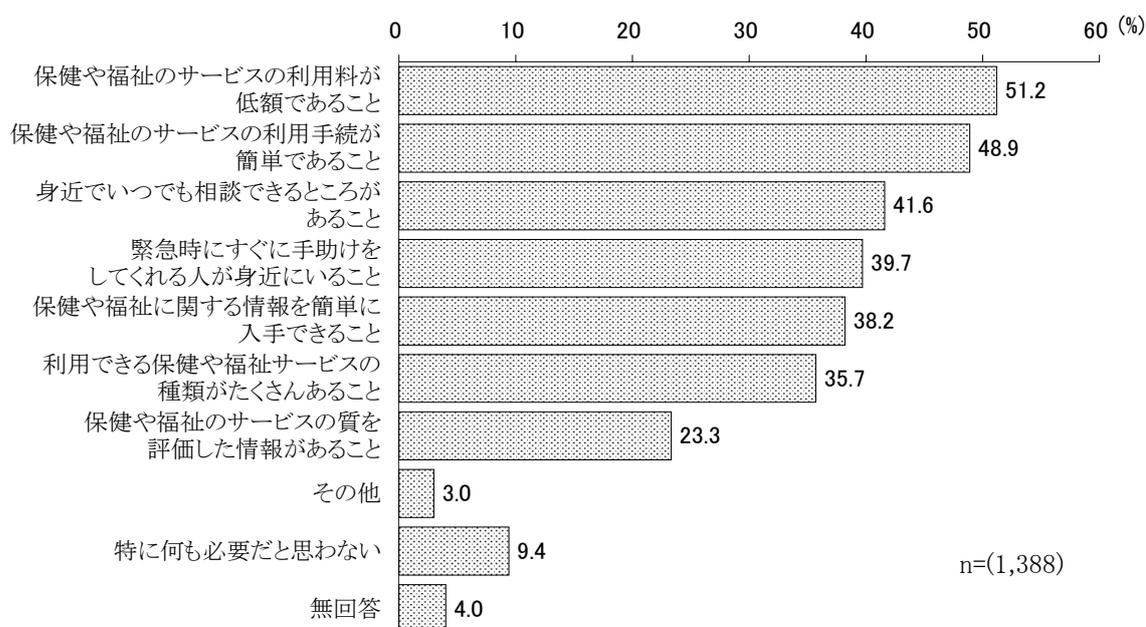
性/年齢別では、「身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない」は男性の70歳以上、女性の60歳以上で半数を超えて多くなっている。「介護が必要な家族を、家庭で介護できるか自信がない」は、女性の40歳代と50歳代が3割台となっている。「病気になったときに頼れる人が身近にいない」は男女ともに20歳代で2割台半ばで多くなっている。「子育てがうまくできるか不安である」は男性の30歳代、女性の20歳代と30歳代で2割台となっている。(図表2-11)

2-5 心配ごとを解決するために必要なこと

◎ 「保健や福祉のサービスの利用料が低額であること」と「保健や福祉のサービスの利用料が簡単であること」が半数前後

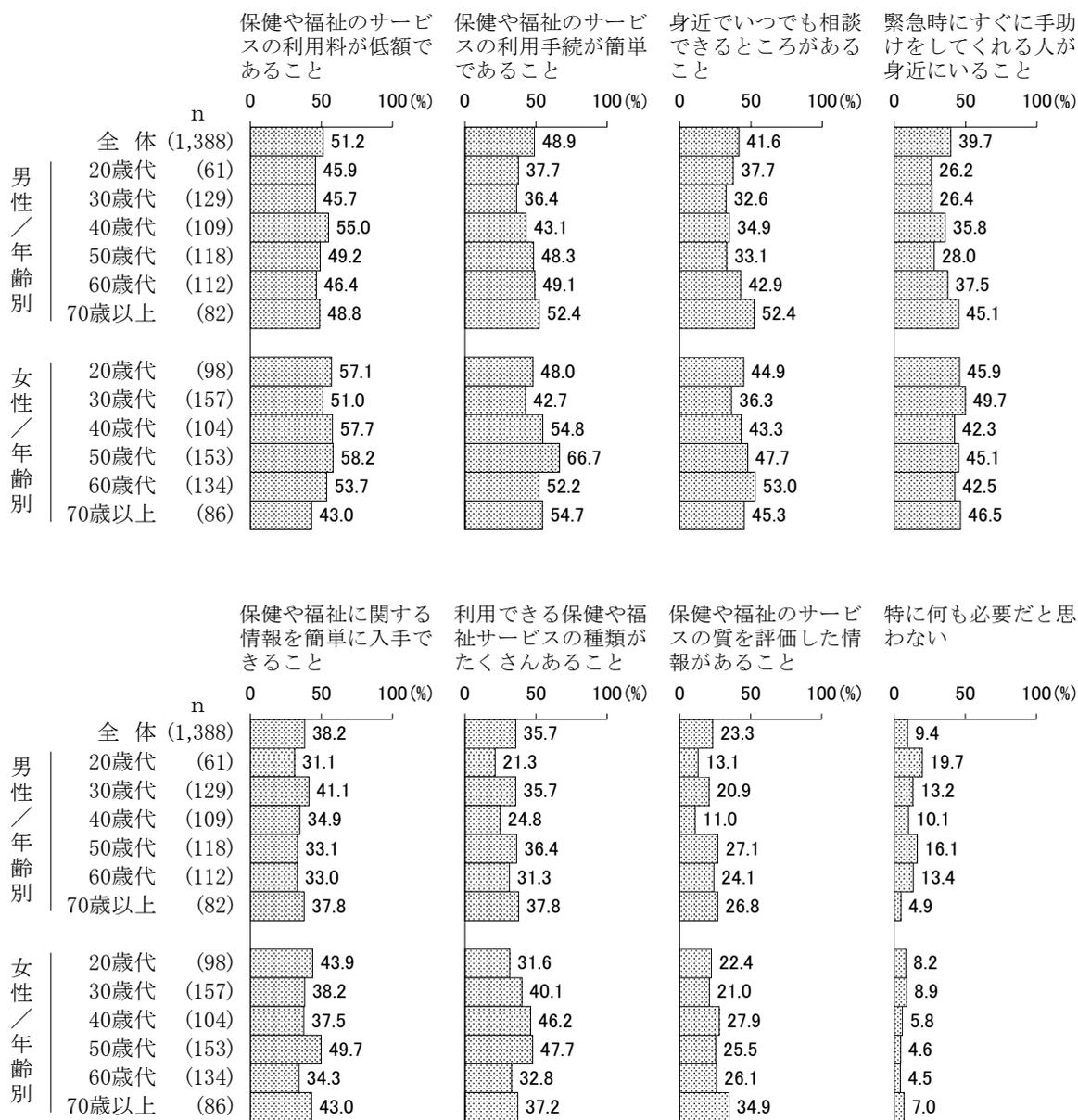
問12 あなたの心配ごとを解決するために、必要だと思われることはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)

図表2-12 心配ごとを解決するために必要なこと



心配ごとを解決するために必要なことでは、「保健や福祉のサービスの利用料が低額であること」が51.2%で半数を超え、以下、「保健や福祉のサービスの利用料が簡単であること」(48.9%)、「身近でいつでも相談できる場所があること」(41.6%)、「緊急時にすぐに手助けをしてくれる人が身近にいること」(39.7%)、「保健や福祉に関する情報を簡単に入手できること」(38.2%)などが続いている。(図表2-12)

図表2-13 心配ごとを解決するために必要なこと（性／年齢別）



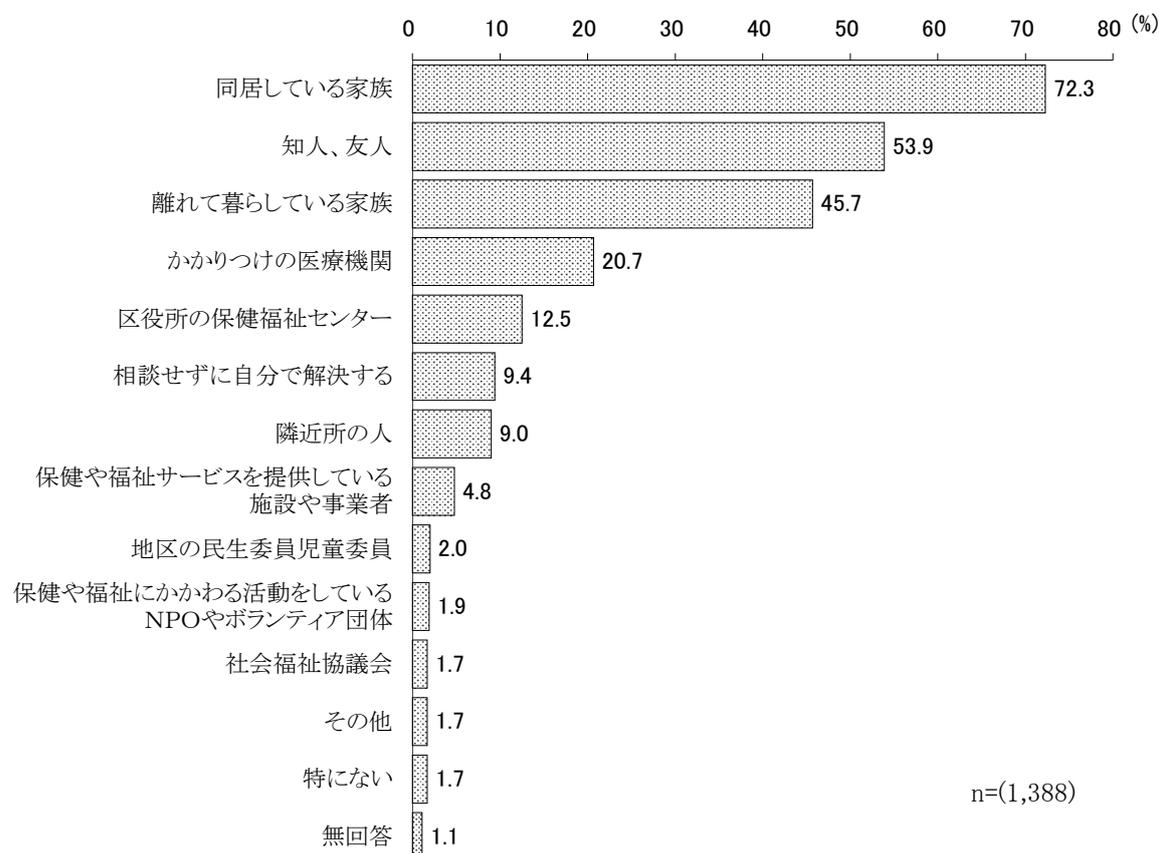
性／年齢別では、「保健や福祉のサービスの利用料が低額であること」は男女ともに40歳以上で割合が多く、「身近でいつでも相談できるところがあること」は男女ともに60歳以上で多くあげられている。「緊急時にすぐに手助けをしてくれる人が身近にいること」は全体的に女性の割合が多い。(図表2-13)

2-6 心配なことが起きたときの相談先

◎ 「同居している家族」が72.3%、「知人、友人」が53.9%

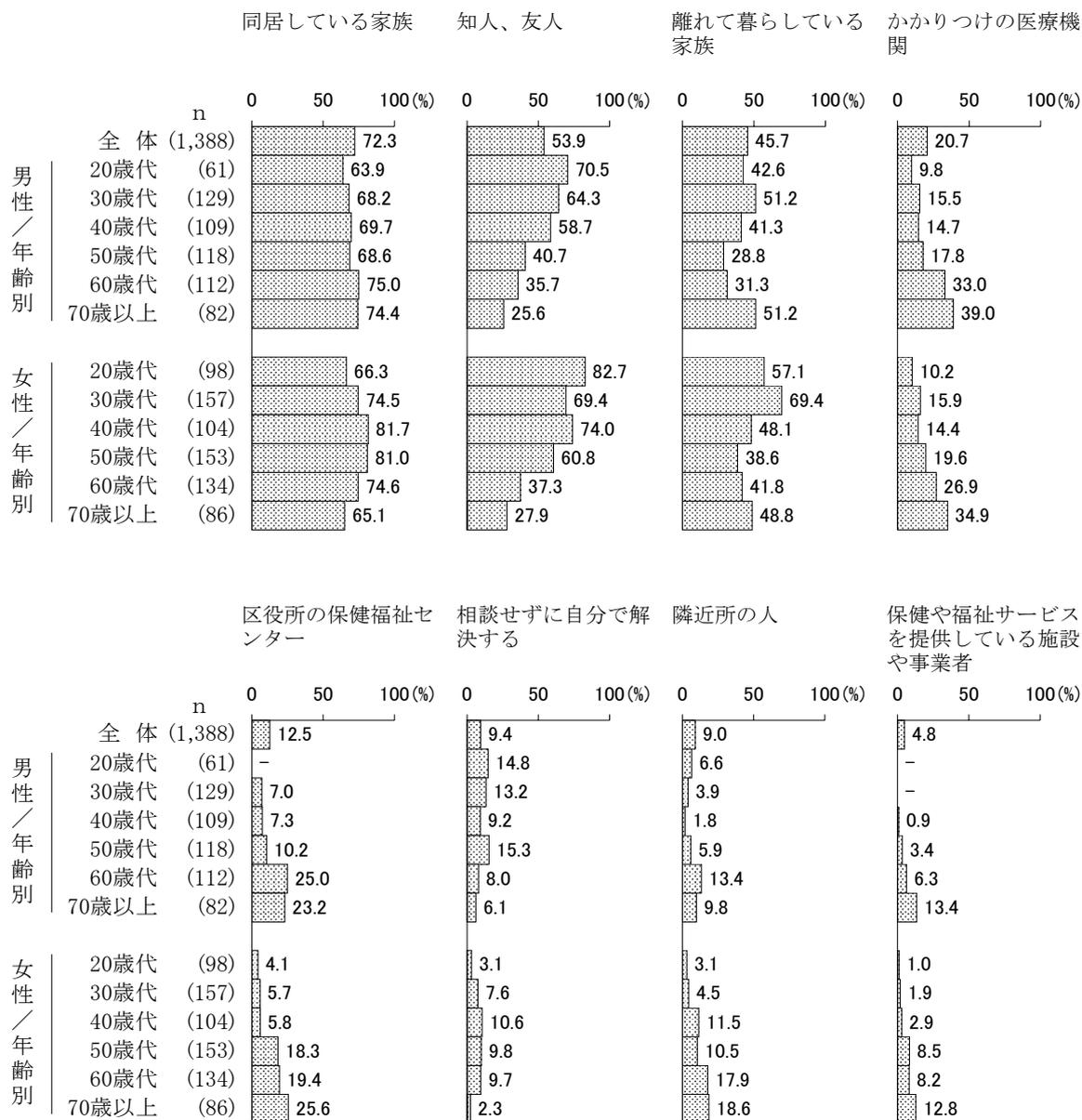
問13 あなたが日々の生活をする上で、心配なことが起きたときの相談先はどこですか。
(あてはまるものすべてに○)

図表2-14 心配なことが起きたときの相談先



心配なことが起きたときの相談先では、「同居している家族」が72.3%で最も多くなっている。以下、「知人、友人」(53.9%)、「離れて暮らしている家族」(45.7%)、「かかりつけの医療機関」(20.7%)などが続いている。また、「区役所の保健福祉センター」は12.5%で1割を超えているが、「地区の民生委員児童委員」、「社会福祉協議会」は1割に満たない。(図表2-14)

図表2-15 心配なことが起きたときの相談先（性／年齢別、上位8項目）



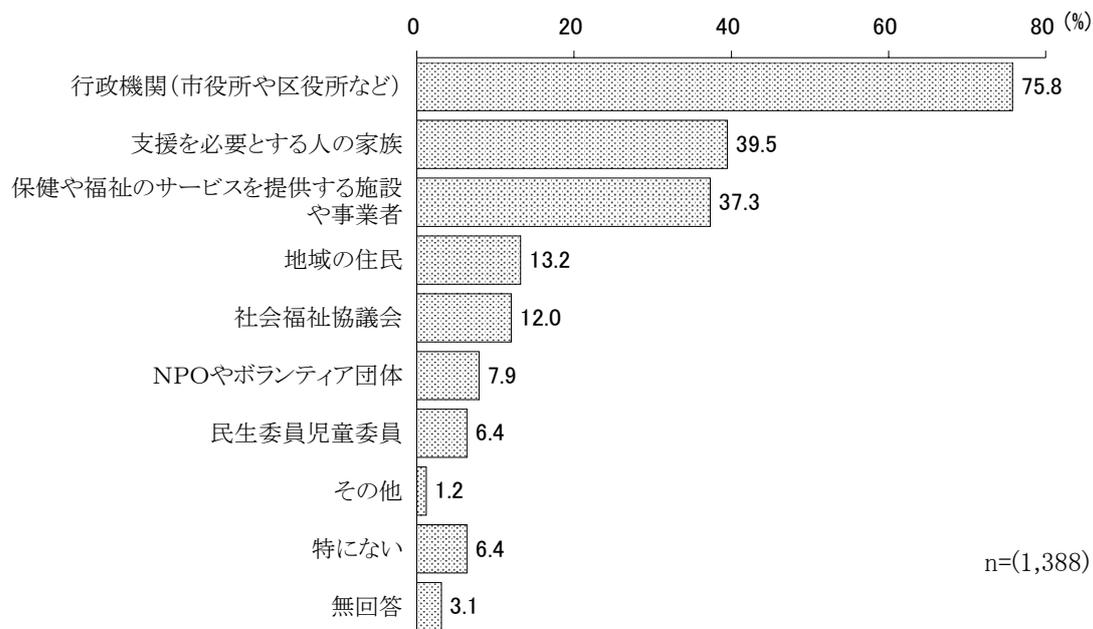
性／年齢別では、「同居している家族」はいずれの年齢でも多くあげられているが、特に女性の40歳代と50歳代では8割台で多くなっている。「知人、友人」は、男女ともに20歳代で最も多くあげられており、以降は年齢が高くなるにつれて少なくなる傾向がみられる。「離れて暮らしている家族」は男性の70歳代、男女の30歳代で多くなっている。「区役所の保健福祉センター」は男性の60歳以上、女性の70歳以上で2割台と比較的多くなっている。(図表2-15)

2-7 必要な支援を行うべき担い手

◎ 「行政機関（市役所や区役所など）」が75.8%と突出して多い

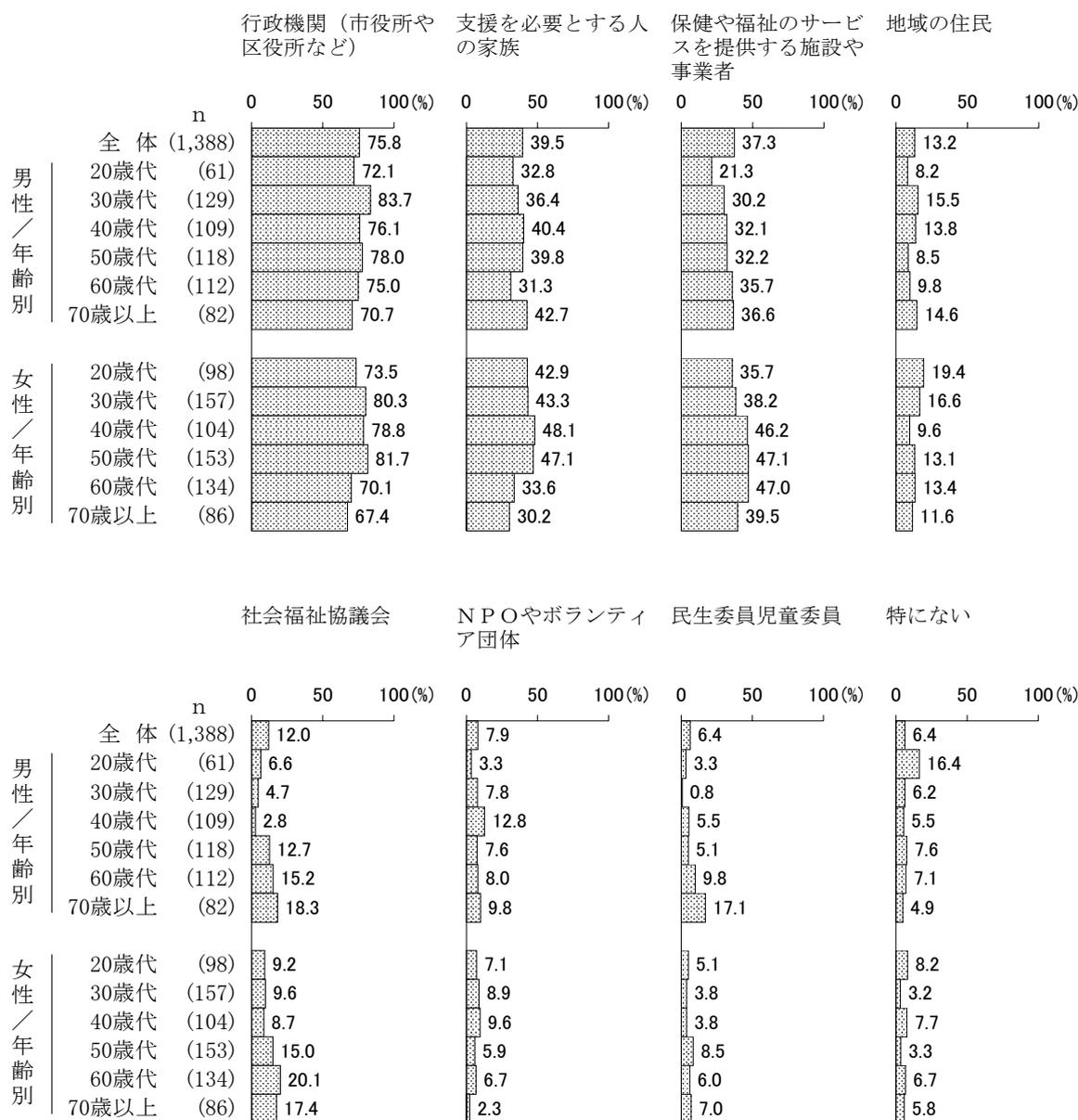
問14 あなたが日々の生活をする上で、必要な支援を行うべき担い手はどこだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表2-16 必要な支援を行うべき担い手



必要な支援を行うべき担い手では、「行政機関（市役所や区役所など）」が75.8%と突出して多くなっている。以下、「支援を必要とする人の家族」（39.5%）、「保健や福祉のサービスを提供する施設や事業者」（37.3%）が3割台が続いている。（図表2-16）

図表2-17 必要な支援を行うべき担い手（性／年齢別）



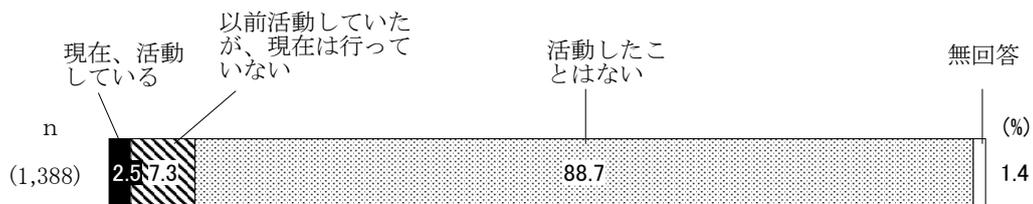
性／年齢別では、「行政機関（市役所や区役所など）」はいずれの年齢でも多くあげられており、特に男女の30歳代、女性の50歳代で8割台と多くなっている。「社会福祉協議会」は男女ともに50歳以上で比較的多くなっている。（図表2-17）

2-8 保健福祉に関するボランティアの活動経験

◎ 「活動したことはない」が88.7%

問15 あなたは、保健福祉に関するボランティア*について活動した経験がありますか。
(○は1つ)

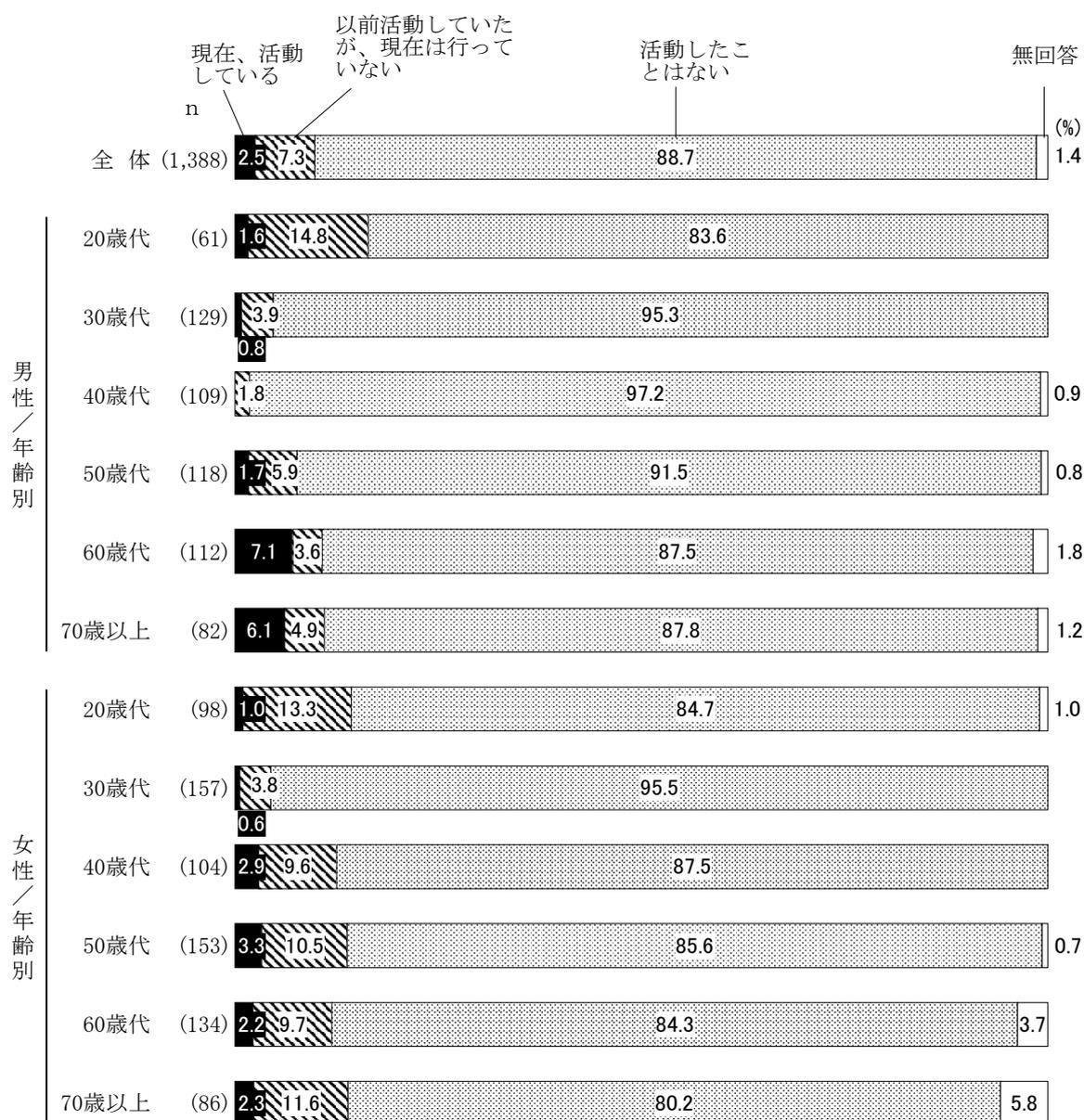
図表2-18 保健福祉に関するボランティアの活動経験



* 保健福祉に関するボランティア：例えば福祉施設における介助のお手伝いや、一人暮らし高齢者のための会食会など、保健や福祉に関連したボランティアのこと

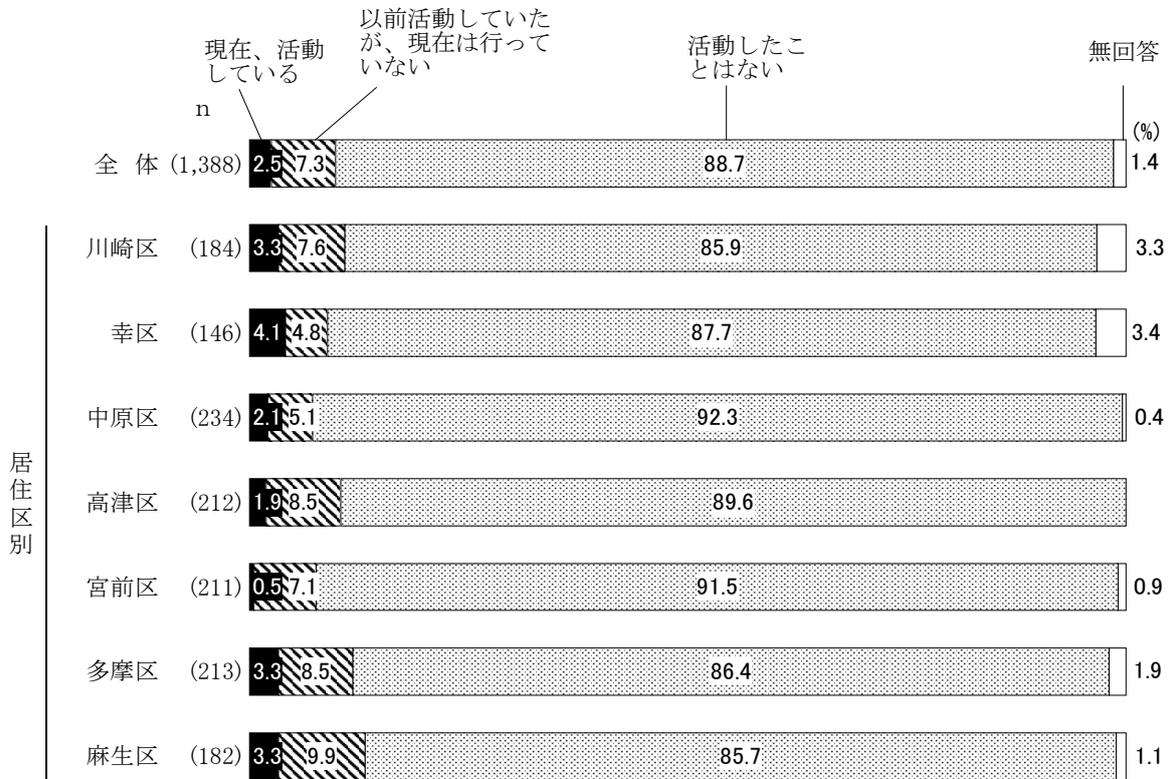
保健福祉に関するボランティアの活動経験では、「現在、活動している」(2.5%)や「以前活動していたが、現在は行ってない」(7.3%)は1割未満と少数にとどまっており、「活動したことはない」が88.7%と9割近くを占めている。(図表2-18)

図表2-19 保健福祉に関するボランティアの活動経験(性/年齢別)



性/年齢別では、「現在、活動している」は男性の60歳代で7.1%、70歳以上で6.1%となっている他は、少数にとどまっている。「以前活動していたが、現在は行っていない」は男女ともに20歳代、女性の50歳代と70歳以上で1割台となっている。(図表2-19)

図表2-20 保健福祉に関するボランティアの活動経験（居住区別）



居住区別では、区によって大きな差はみられない。(図表2-20)

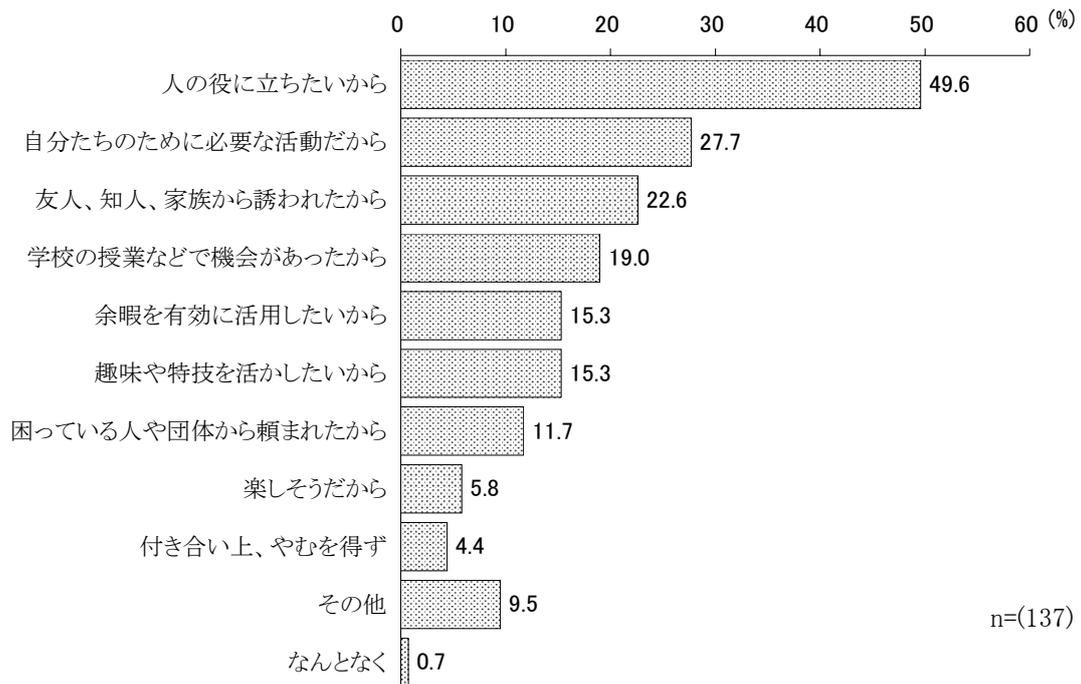
2-9 保健福祉に関するボランティア活動に参加した動機やきっかけ

◎ 「人の役に立ちたいから」が49.6%

(問15で(保健福祉に関するボランティアについて)「現在、活動している」または「以前活動していたが、現在は行っていない」と答えた方にかがいます。)

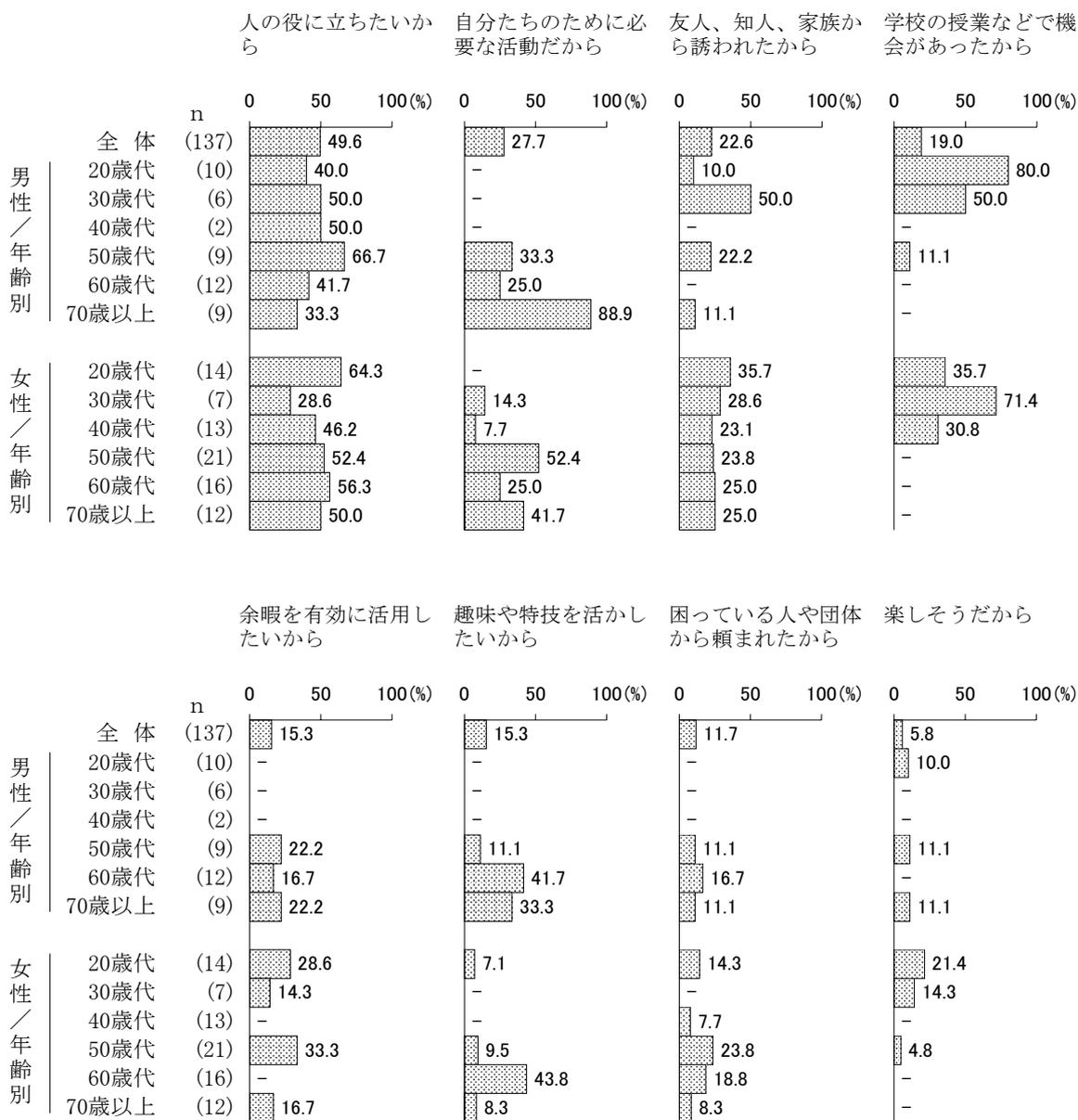
問15-(1) 保健福祉に関するボランティア活動に参加した動機やきっかけは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

図表2-21 保健福祉に関するボランティア活動に参加した動機やきっかけ



活動に参加した動機やきっかけは、「人の役に立ちたいから」が49.6%と半数近くで最も多くなっている。以下、「自分たちのために必要な活動だから」(27.7%)、「友人、知人、家族から誘われたから」(22.6%)、「学校の授業などで機会があったから」(19.0%)などが続いている。(図表2-21)

図表2-22 保健福祉に関するボランティア活動に参加した動機やきっかけ(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表2-22)

図表2-23 保健福祉に関するボランティア活動に参加した動機やきっかけ（居住区別、上位8項目）



居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表2-23)

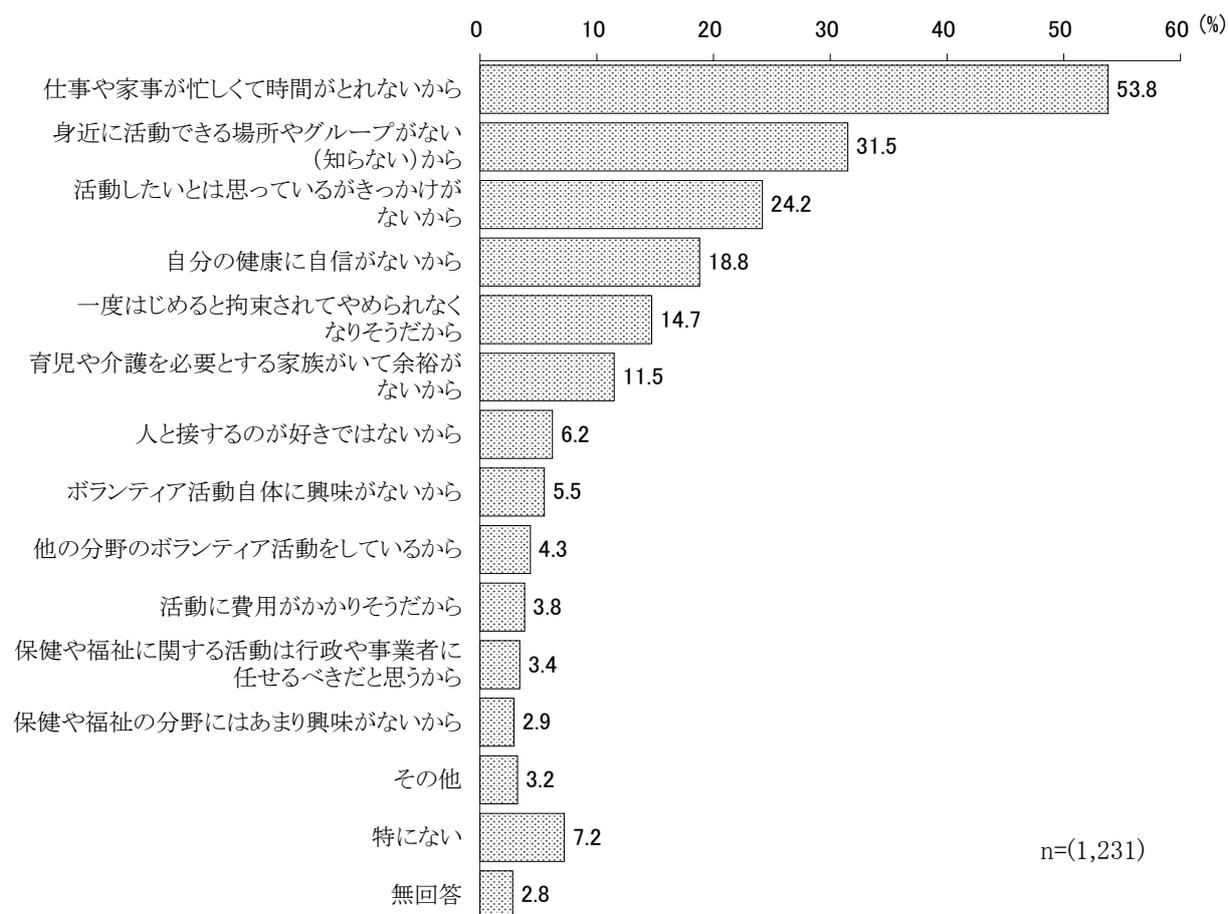
2-10 保健福祉に関するボランティア活動に参加したことがない理由

◎ 「仕事や家事が忙しくて時間がとれないから」が53.8%

(問15で(保健福祉に関するボランティアについて)「活動したことはない」と答えた方にうかがいます。)

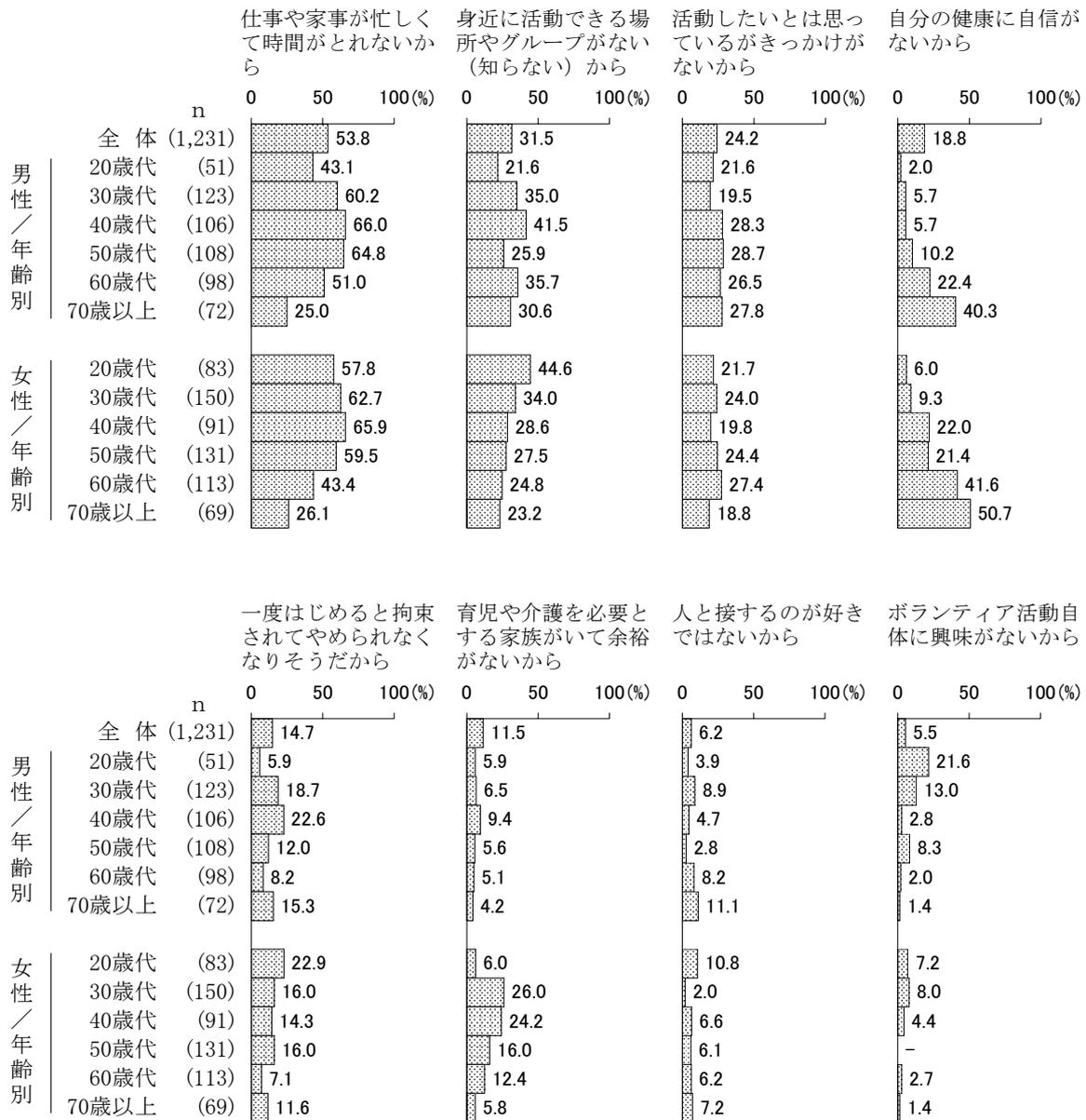
問15-(2) あなたが保健福祉に関するボランティア活動に参加したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-24 保健福祉に関するボランティア活動に参加したことがない理由



活動に参加したことがない理由では、「仕事や家事が忙しくて時間がとれないから」が53.8%と半数を超えて最も多く、「身近に活動できる場所やグループがない(知らない)から」(31.5%)、「活動したいとは思っているがきっかけがないから」(24.2%)と続き、上位の3項目は時間や機会のなさが理由となっている。以下、「自分の健康に自信がないから」(18.8%)、「一度はじめると拘束されてやめられなくなりそうだから」(14.7%)、「育児や介護を必要とする家族がいて余裕がないから」(11.5%)が続いている。(図表2-24)

図表2-25 保健福祉に関するボランティア活動に参加したことがない理由（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、「仕事や家事が忙しくて時間がとれないから」は男女とも30歳代から50歳代で6割近くから6割台と多くあげられている。「身近に活動できる場所やグループがない(知らない)から」は男性の40歳代、女性の20歳代で4割となっており、女性では以降年齢が高くなるにつれて少なくなる傾向がみられる。「自分の健康に自信がないから」は男女ともに年齢が高いほど多くなる傾向がみられる。「育児や介護を必要とする家族がいて余裕がないから」は女性の30歳代、40歳代で2割台と比較的多くなっている。また、「ボランティア活動自体に興味がないから」は男性の20歳代で2割と多くなっている。(図表2-25)